【 116 】

氏名	福 島 正 樹
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第1718号
学位授与の日付	昭和61年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	Ricinus communis AGGLUTININ II-REACTIVE GLYCOPROTEINS FROM THE ASCITES OF PATIENTS WITH HEPATOCELLULAR CARCINOMA AND THEIR USE IN ENZYMELINKED IMMUNOSORBENT ASSAY （肝細胞癌患者腹水におけるヒマレクチン反応性糖蛋白質の検討 —精製および酵素免疫測定法への臨床的応用について—）
論文審査委員	教授 木村郁郎　教授 産賀敏彦　教授 太田善介

学位論文内容の要旨

レクチンアフィニティクロマトグラフィーを用いて，肝細胞癌患者腹水よりヒマレクチン（*Ricinus communis* agglutinin II）反応性糖蛋白質を調製した。このものより 他のアフィニティカラムを用いて正常ヒト血清成分および肝硬変腹水成分を除去した糖蛋白質（RBG-1）は，もとの腹水蛋白量の0.1%以下であった。RBG-1はsodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresisでは20Kから200Kダルトンにおよぶ10本以上の主要ポリペプチド鎖より構成されていた。ウサギで得た抗RBG-1抗体を用いたimmunoblotting法では，45K，52Kおよび55Kダルトンの成分（RBG-2）と強く反応した。この抗体を用いたenzyme-linked immunosorbent assayにより，各種肝疾患および消化器癌患者血清中のRBG-2を測定した。

肝細胞癌91%，他の消化器癌70%，肝硬変88%，慢性肝炎55%，急性肝炎25%で陽性を示し，またその血清レベルの平均値は，肝細胞癌において他の群より有意に高値であった。肝細胞癌のRBG-2には，肝細胞癌関連糖蛋白質が含まれることが示唆された。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝細胞癌患者腹水におけるヒマレクチン反応性糖蛋白について基礎的ならびに

臨床的に研究したものであるが，従来十分検討されていなかったその精製および酵素免疫測定法の臨床応用について，精製した糖蛋白質RBG−1の抗体を用いて更に強い反応を示す成分RBG−2を同定し，enzyme−linked immunosorbent assayにより肝細胞癌に最も強い陽性所見を認め，この中に肝細胞癌関連糖蛋白質の含まれる可能性を認めており，重要な価値ある業績と認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。